



東村山稲門会

東村山稲門会会長

大西 幸夫

設立一周年を迎えて



東村山稲門会は一昨年十一月十日に
 発足以来一年が経過しましたが、その
 間毎月の例会・講演会の開催、ニュース
 の発行、各種同好会活動など近隣稲門
 会と比較してもはるかに活発な活動を
 実施してまいりました。

このような活動が実現できたのは、
 ひとえに役員をはじめ皆様のご協力の
 お陰と感謝致しております。

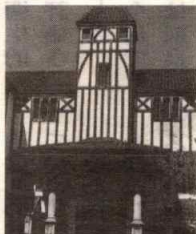
この一周年を機に改めてわが稲門会の
 趣旨・目的を考えてみたいと思います。

第一には早稲田を縁として地元東村
 山に親しい友人をつくること。これは
 世界一の長寿国となった日本で、長く
 なった余命を有意義に過ごすために、
 たとえ若い人でも今から考えて置くべ
 きことと思います。

第二には自分たちが住む東村山市の
 文化向上を図ること。そのためには会
 員自身が東村山市の現状をもっと知る
 必要があり、地元有志を招いての講演
 会や一般市民を巻き込んだ活動など
 開かれた稲門会となる必要があると考
 えます。

第三には母校早稲田大学の発展に寄
 与すること。そのためには近隣稲門会
 をはじめ三多摩稲門連合会の皆様と歩
 調を共にしていきたいと考えています。
 そして究極の目的としては、それら
 の活動を通じて、会員一人一人が生き
 甲斐をもつて充実した満足できる人生
 を全うする、そんな会を志向してい
 たいと思っておりますので、どうぞ皆様
 さらなるご協力をお願い致します。

目次



早大演劇博物館

会長挨拶	会長 大西幸夫	1
記念講演	早大政経学部長 寄本勝美	2
来賓挨拶	早大校友会常任理事 安宅武一	2
	立川稲門会会長 鈴木健一	2
幹事長所感	幹事長 木谷 肇	3
事業計画と予算他	木谷/塩見 崎山	3
稲門会一周年を顧みて	副会長 三宅良太	4
早稲田今昔物語	副会長 久世利夫	4
早稲田祭中止問題		
早大学生部事務部長	小亀輝雄	5
新「財務部長」奮闘記	早大財務部長 井原 徹	5
早稲田ニュース・大学通信	事務局	5
同好会・サークルへのお誘い	各世話人	6
総会懇親パーティ	久保栄二・町田和夫	7
活動アンケート結果	高柳 剛	8
事務局からのお知らせ	事務局	8
編集後記	スタッフ	8

資源循環型社会の建設と市民

早稲田大学政治経済学部長 寄本 勝美



今日は資源循環型社会システム言い換えればリサイクル社会、ゴミ零社会、零エミッシンについて皆さんと一緒に考えてみたい。

川崎市の清掃局での実習を紹介されたことです。当時、川崎市はゴミを分別しないで毎日、無料で収集し、それを全量焼却しており、

きています。しかも燃やすこと自体、炭酸ガス発生の原因となり、地球温暖化の問題につながってくる、

そんな試みが各都市で行われ、これは世界的な動きになって

清掃事業では最も進んだ衛生的な都市と評価されてきました。しかし今日では、それは最良の方法だろうか、取り出せば資源として使えるものをそのまま燃やしてしまつて良いのだろうか、燃やす前に資源として使えるものは取り出すべきでないだろうか、という考え方が出て

ゴミ焼却で発生する炭酸ガスは約2%の寄与率をもつといわれています。また無料で毎日収集についてもはたして最も良い住民サービスといえるだろうか、ゴミを減らせといわれても、無料で毎日ゴミを持って行つてくれればそんな意識は高まらないではないかという反省も興つています。混合収集も今は良い方法とはいえない。紙、ペットボトル、布、ビン、金属などきめ細かく種類別に分別収集をしてリサイクルシステムを創つていった方がよい。ゴミを衛生的に処理する考えより、ゴミを少なくする、ゴミにする前に資源としてとらえる循環型社会を造つていった方がよい。

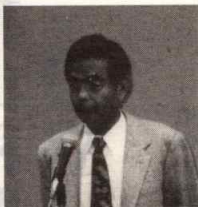
私がゴミ問題に関わりを持ったきっかけは、大学院で自治行政を勉強していたとき、本で勉強するだけでは、身につかないと感じ、先生に相談したところデスクワークより現場の仕事がよいと、

発足以来僅か一年にもかかわらず実質会員二百名を擁し、毎月ニュースを発行、部活動も活発、ポストマン制度というユニークな活動で全会員に意志の疎通を図っていること、大変感銘を受けました。最近、校友会では組織強化のため次の方策を実施しています。①卒後五、十年の校友に総長挨拶等大学からのメール②地域や職域に加え、卒年・学部別稲門会の組織化③学生に対する文化講演会開催等です。協力をお願いします。



早稲田大学校友会常任理事 安宅武一

立川稲門会会長 鈴木健一



東村山稲門会には初めての出席ですが、総会出席者数八十名、これは二十ある三多摩地区の稲門会の中でも調布と並んで最大の動員数となります。昨年七月に第十九回三多摩地区連合大会を立川と国立が幹事で開催しましたが当稲門会から七名という多数の参加を頂き、母校の百二十五周年に向けて三多摩連合会として今年から毎年六十万円計六百万円の寄付の提案についても了承頂いたことを御礼申し上げます。

東村山稲門会役員

会長	大西幸夫 (S30理工)
副会長	久世利夫 (S22政経)
幹事長	三宅良太 (S36商)
幹事	木谷 肇 (S42商)
	伊藤友己 (S51政経)
	井原 徹 (S44法)
	上 幸雄 (S47教育)
	江藤昌明 (S27政経)
	久保栄二 (S46法)
	小亀輝雄 (S34商)
	田口政澄 (S36理工)
	当間昭治 (S43法)
	長井 治 (S29法)
	町田和夫 (S53理工)
会計	山下邦康 (S36教育)
	崎山裕子 (S52教育)
会計監査	高柳 剛 (H3社会学)
	岡原裕泰 (S39文)
	塩見之一 (S25専工)
事務局	小亀輝雄 (五十音順)
事務局員	高柳 剛
	町田和夫

そんな中で東村山市の取組は、三年前まで私もゴミ処理推進委員長をしていましたが全国的に注目を集めようとしています。詳しくは、この会員である上さん(上 幸雄氏・幹事)から聞いてください。(資源循環型社会の詳しい話については、紙面の都合から割愛)

事業計画および予算

幹事長所感



比較的年配諸氏の多い中で、五三才あたりは若い方で、自然と推進役を担う破目になつたのでした。

話に、放り込まれたのでした。

親睦が第一義であり、一年経つた今、会員数も増え、同好会活動をはじめ、活発化されてきています。二年目でもあり、組織は未だ分かれぬ面白さも持ち合わせています。

待っています！ 乞うご期待!!
(S42・商)

会計監査ご意見口上申し上げます

本会の年会費や寄付などは貴重な浄財です。早稲田大学の質実な校風そのまに「一層の効果的支出」を毛緑の封筒を見るツトーとして、微力ながら度々感謝！緑の封筒＝会費払込通知。私、守銭奴ではないけれど、会員目標200名。勿論お預かりした会費は大切タイセツに運用します。崎山 裕子 (S52・教育)

会計シックハックしてます！

二年目に入った

「幹事」の「感じ」

幹事長 木谷 肇

先ず、昨年十一月十五日(土)に、第二回総会が無事実施出来たことを皆様に感謝致します。

今年度の事業計画及び予算については、下の別表に記しましたのでご参照されまし。

ここでは、当稲門会の設立の経緯を肌で感じ、推進し、運営している者の一人として雑感を申し述べます。

思えば不思議な気が致します。

現役のサラリーマンの私が、二年程前のある休日、軽い気持ちで野次馬根性で「東村山の教育と文化を考える会」を傍観しに行ったのが縁でした。早稲田に愛着を持つ者として、少しは恩返しが出来るかという思いはあったものの、その場で稲門会を作ろうという持ち上り話に、放り込まれたのでした。

比較的年配諸氏の多い中で、五三才あたりは若い方で、自然と推進役を担う破目になつたのでした。

'97年度事業計画と予算

('97. 10. 1 ~ '98. 9. 30)

	収入の部		単位: 円
	前年度から繰越金		246,364
1. 総会の開催	年会費	(@3,500×200人)	700,000
2. 会員例会及び懇親会の開催	総会・懇親会費	(@6,500×100)	650,000
◇例会は奇数月、第1土曜日、午後3時より (於中央公民館 会議室)	大学から活動助成金		180,000
◇懇親会は例会の後、場所適宜	寄附等		50,000
3. 役員会の開催	合計		1,826,364
◇毎月第1土曜日、午後2時より (於中央公民館 会議室)	支出の部		単位: 円
4. 新規会員の加入勧誘	会場費	(総会・例会)	60,000
5. 講演会の開催	講師謝礼 (6回)		120,000
◇文化・教育・環境等をテーマとし、2ヶ月に1度程度。	事務通信費		300,000
6. 分科会 (同好会) 活動	会報ニュース作成費		200,000
◇新規同好会の設置促進	他会への参加費		50,000
◇既存同好会の活発化	大学125周年募金寄附		30,000
7. 会員名簿の発行	総会・懇親会	パーティ費	650,000
8. 会報及びニュースの発行	同好会補助費		100,000
◇会報は年1回、1月発行	備品他 雑費		100,000
◇ニュースは原則毎月	次年度へ繰越金		216,364
9. 早稲田大学キャンパスツアーの実施	合計		1,826,364

東村山稲門会一周年を顧み

今後の発展を期して

副会長 三宅 良太



一昨年（平成八年）十一月十日設立総会を開催して以来まる一年余り経ち、昨年（平成九年）十一月十五日第二回総会を再び盛會裡に催すことが出来ましたことは誠に同慶の至りに存じます。

あらためてこの一年間の活動状況を振り返りかえつてみますと、月例の幹事会や主に会員によるミニスピーチ講演会（三回）の開催、会報創刊第一号や東村山稲門会ニュース（一、九号）の発行並びにボストマン制度による配布、同好会活動もウオ

キング、ゴルフ、郷土史、絵画、麻雀、早慶野球戦応援、その他都内区市の稲門会總會や、三多摩稲門連合会に出席等活発に行われてきました。これもひとえに、早稲田の旗印のもと、幹事、会員有志の皆様の献身的なご協力によるもので本心に敬意を表したいと存じます。

校友会の構成は現在各職場で仕事に従事している方々、既に現役を離れ自適の生活の方々と色々ですが、こうした地域での地道な活動を

通じて我々が住んでおります東村山市内に母校早稲田を縁にした新しい交友の環、人間関係が醸成されつつあることは誠に慶ばしい限りでございます。

今後二十一世紀に向けて日本全体が超高齢化社会に入つて参りますが、我々も稲門会を一つのよりどころとして、一人一人が、この町の歴史と現状についてより理解を深め、東村山市民として誇りと生き甲斐のもてる快適な生活環境づくり、地域社会の文化向上に貢

献出来ればと考えております。他市の稲門会でもそれぞれ活発に活動されておりますので、その交流をすすめることにより、情報交換、ネットワーク作りも可能となると存じます。

母校早稲田大学においても来る二〇〇七年の創立一二五周年に向けて「グローバル・ユニバーシティ」(GLOBAL+LOCAL=GLOBAL)地球規模の世界的な視野とあわせて地方色を持ちあわせた活力のある大学の実現を目指

事である。木造のオンボロ校舎は板裏草履で歩き廻る足音でやかましい。クラスの大半は地方の中学

高射砲の炸裂音に続いて凄まじい爆音。食べかけの丼を放り出してグラウンド坂上の食堂を飛び出す。一瞬低空で飛行機が飛び去つて行った。演習だよ、アメリカの飛行機だと言いついていたが、鶴巻町では投下された焼夷弾で火災発生。小亀輝雄坊や（現稲門会事務局長）は小さな手で消火に加わっていた。昭和十七年四月の本土初空襲だ。穴八幡下にあつた第一高等学院に入つて早々の



早稲田今昔物語

あの頃、あの時、あの界限

副会長 久世利夫

出身者で早稲田界限に沢山あつた下宿屋の狭いねぐらから毎日盛り場巡りに精を出していた。参勤交

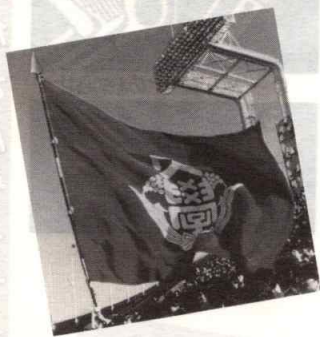
代で出府して来た勤番侍さながらである。誰もが青年らしい未知のロマンを求めて青春彷徨の日々を楽しんでた。世相はだんだん暗くなつて来たが、学園には束の間の自由が残つていた。然し十八年になると学園生活も殺伐として来た。軍事教練が強化され、学生の徴兵猶予の特典が撤廃される。早慶野球部による出陣学徒壮行試合が戸塚球場で十月に行われ、十二月一日いよいよ学徒出陣。寄せ書きに埋もれた日の丸を肩から斜めに掛けた友人を見送る日が続く。駅前広場で肩を組んで校歌を唄う輪の中を通りすがりの人が入り込んで一緒に都の西北を唄つて送つてくれた。(S22政経)



して奥島総長以下大学改革に取り組んでおられます。我々も培つてきた早稲田精神を大いに発揮し校友会活動も盛んにして母校のさらなる発展を念じたいと存じます。今年も会員皆様御健勝で過ぎしにられますようあわせて東村山稲門会の益々の発展を祈念申し上げます。(S36・商)

早稲田祭
中止問題

揺れるワセダ、その発生と成行き



■新しい大学院「アジア太平洋研究科」
本年4月開設 年明け早々、出願受付開始

この研究科は、21世紀に向けて国際舞台で通用する人材育成をめざし、実学志向の力リキュラムで行われる。国際関係学と国際経営学の2種専攻を設置、定員は各専攻共100名。入学時期は4・9月の2回、日本語・英語のどちらの言語でも学位取得可能。志願要項・案内書請求は同研究科開設準備室 電話03-5286-3877

■西早稲田キャンパスに新校舎建設中

地上10階、地下2階の新校舎を14号館跡地に建設中。教育学部・社会科学部等の固有の施設と共同利用の施設からなる新しい教育・研究棟で本年4月完成を目指す。

■新学生会館、記念会堂裏グラウンドに

「早稲田文化の殿堂」たるにふさわしい学生会館の建設を決定。地上11階、地下2階で年度内に着工。全学生を対象に説明会やアンケートを実施、その声も反映した。

■【大学】入学試験日程

2月16日	理工	2月17日	一文
2月18日	教育	2月19日	人科
2月20日	政経	2月21日	法
2月22日	商	2月23日	社学
2月24日	二文		

大学通信

春季休業	二月六日～三月三十一日
学部・専門学校卒業式	三月二十五日
大学院学位授与式	三月二十五日
入学式	四月一日
前期授業	四月二日
大学院	四月二日
夏季休業	七月十九日～九月十五日
後期授業開始	九月十六日
創立記念日	十月二日
冬季休業	十二月十七日～一月七日
授業終了	二月六日

WASEDA NEWS

そこで94年からこれら問題につき早稲田祭委員会が協議が行われ、

拒否。昨年7月まで何回もの話し合いを重ねましたが決裂。同8月1日、臨時学部長会議を開き早稲

で構成される「早稲田祭委員会」のもとで学生が主体的、自主的に運営してきました。72年の内ゲバ事件を契機に学生側が検問をしき、プログラム未購入者は在校生、教職員を問わず学内に入れないという異常事態が続き、また早稲田祭の収支も不透明でした。

田祭はプログラムなしでも自由に入れるという「開かれた早稲田祭」が実現しました。しかし同祭終了後、実施母体「早稲田祭実行委員会」(革マル支配下の学生団体)がプログラムに入れるはずの広告を早稲田大学新聞会(革マル支配下の学生サークル)発行のパンフレットに流していたことが判明。大学側はこの広告収入を早稲田祭の収入として計上するよう求めました。しかし実行委員会側はこれを拒否。昨年7月まで何回もの話し合いを重ねましたが決裂。同8月1日、臨時学部長会議を開き早稲

田祭の中止を決めました。ところが「44回早稲田祭実行委員会」を自称する一部学生は東京地裁の仮処分決定にも反して「WASEDA FESTIVAL」なるイベントを強行。しかしほとんどの学生は関心を示さず授業が行われました。来年度の早稲田祭はかつて成立した改善策、「検問体制の廃止」「収支の明朗・適正化」を理解したうえで学生の実施運営を期待したいものです。一部セクトの利益のためでなく、「早大生のための早大生の手による早稲田祭」を実現したいと願っています。この問題は新生早稲田をつくる産みの苦しみとご理解ください。(S34・商)

私大ビッグバンを乗り切り、皆様にいつまでも愛され続ける早稲田であるために、もつともつと汗を流します。(S44・法)



新生早稲田「産みの苦しみ」

学生部・事務部長 小亀 輝雄

96年3月に「早稲田祭に關する改善策」が合意。

財務部長 井原 徹

新「財務部長」奮闘記

早稲田祭の中止問題は会員の皆さんにご心配をおかけしました。その経緯を簡単に説明しておきます。同祭は54年以来大学と学生側

田祭はプログラムなしでも自由に入れるという「開かれた早稲田祭」が実現しました。しかし同祭終了後、実施母体「早稲田祭実行委員会」(革マル支配下の学生団体)がプログラムに入れるはずの広告を早稲田大学新聞会(革マル支配下の学生サークル)発行のパンフレットに流していたことが判明。大学側はこの広告収入を早稲田祭の収入として計上するよう求めました。しかし実行委員会側はこれを拒否。昨年7月まで何回もの話し合いを重ねましたが決裂。同8月1日、臨時学部長会議を開き早稲

田祭の中止を決めました。ところが「44回早稲田祭実行委員会」を自称する一部学生は東京地裁の仮処分決定にも反して「WASEDA FESTIVAL」なるイベントを強行。しかしほとんどの学生は関心を示さず授業が行われました。来年度の早稲田祭はかつて成立した改善策、「検問体制の廃止」「収支の明朗・適正化」を理解したうえで学生の実施運営を期待したいものです。一部セクトの利益のためでなく、「早大生のための早大生の手による早稲田祭」を実現したいと願っています。この問題は新生早稲田をつくる産みの苦しみとご理解ください。(S34・商)

このたび財務部長などという大それたポストに就いてしまい、大汗の毎日です。受験生の減少、国庫補助金の減額傾向、資金運用における超低金利による収入の伸び悩みがあり、一方でグローバルユニバーシティの実現を目指した大学改革のための支出増に対応しなければなりません。

絵画部が発足して以来約1年が経過しました。その間に水墨・水彩・油彩など各絵画分野の部会員の多数の優れた作品を拝見し、現在の画壇活動を知る機会に恵まれました。絵が好きの方、絵の制作を志す方、隠れた感性を見い出して磨きをかけたい方々、我々

絵 画 部

塩見 之一
(95-3718)

と一緒にイーゼルを並べて見ませんか。

今まで知らなかった世界が展けます。美術には規制はタブーですので細々したことは言いませんが質問は歓迎します。参加ご希望の方はご連絡下さい。

音 楽 同 好 会

〔活動状況〕
平成9年2

月、音楽に興味のある会員8名が出席し、第1回会合が開催されました。その後、目立った活動は行われておりません。より多くの方の参加が望まれます。

〔募集〕老若男女不問。気軽参加歓迎。音痴可。有段者可。天才可。音楽好きと

いっても様々ですが、歌、鑑賞、演奏何でも結構です。ジャンルも問いません。こんなことをしたい、こんなことがあれば参加したい等、皆様のご意見、ご希望も是非お寄せください。

木村 草彦
(96-3725)



サークル・同好会のお知らせ



みなさんやっていますか！

昨年（平成9年）は初会合を四月六日に開催、以後都合四回の学習会、講演会そして十二月十四日の第二回下宅部遺跡現地説明会のお知らせ等を行いました。今年は一、二十五日に第一回会合を討論会形式で進行の予定にしております。

郷土史の会

東村山市周辺は縄文時代から人々が生活していたところですが、この土地の歴史と文化風習等をご一緒に勉強してみませんか。稲門会ニュースで日程をその都度お知らせ致します。
代表幹事 三宅 良太
(94-5298)



昨年4月と9月の2回會長杯コンペを開催。ゴルフという共通項で集まるわけですから、19番ホールですっきり打ち解けて和気藹々、愉快的なミーティングが楽しみな会です。

第3回コンペのご案内も間近。マナーとエチケットを心得た東村山稲門会

のみなさんですからどなたでも参加OK。お気軽に申し込んで下さい。

また、普段も誘い合ってゴルフライフをエンジョイしましょう。グリーンの上で新しい出会いが生まれますよ。

井垣 和太
(96-3100)

ゴルフ同好会

東村山稲門会の活動をより多くの校友（学生含む）に知ってもらうためにホームページを開設しました。内容は設立経緯・入会案内・活動予定・活動内容・同好会活動など最新情報を提供しております。また電子メール・パソコン通信を行ない会員相互の親睦及び

インターネット同好会

パソコン知識の共有を目指しております。興味のある方はご連絡ください。
〈ホームページアドレス〉
<http://www.din.or.jp/~tigers>
〈E-mail〉
tigers@din.or.jp

世話人 高柳 剛
(97-4232)

市内のウォーキングを通して、緑地・緑道・史跡・知られていないナイススポットなどを探索し、街を再発見していきながら、会員相互の親睦を図ることがこの同好会の目的です。

日頃の運動不足の解消もかねて、実際に気楽な気分です市内を歩いてみたいと思います。「ウォーキング終了」

後、居酒屋などでの親睦会（冷たい生ビールなど）もあります。まだ面識のない会員の方々にも、ご参加いただき、ウォーキングを通して会員相互の交流、健康の維持につながれば幸いです。
（連絡先）町田 和夫（94-2438）
久米川町5-11-2

ウォーキング同好会

麻雀同好会

当会は初心者大歓迎の和気合い合いの会です。前年度は、第1回8月（10名2卓）、第2回12月（12名3卓）の活動でした。

日曜日の午後から開始、半チャン4回の合計で順位を決め、賞は優勝杯、準優勝盾それに全員に賞が当たるという楽しさがあります。

田口 政澄（95-4077）

みなさんやっていますか！

草笛の響きの中に

懇親パーティ



親睦の輪 いちだんと広がる

草笛の響きの中に、女性の方々は花を添えても、和やかなに談笑し、話が弾みまし



総会に引き続き、夕方から久米川駅北口の「菊水グルメ」宴会場にて、約七十名の会員・来賓が出席して懇親会が盛大に開催されました。初めに久世副会長から熱のこもった挨拶の後、大学関係者・近隣稲門会代表の方々の紹介があり、続いて当会、長老の松坂氏の音頭で乾杯。会場では月例会でいつも会う人、一年ぶりで再会



草笛を演奏の河津氏

会場内は晩秋なのに熱気でクワイを入れるほど。皆さん仲間を求めて動き回る顔はイキイキとしており、十歳は若く見えました。会の中盤では、校友でゲストの河津哲也氏に草笛の演奏を依頼し、高音の、もの悲しい響きに聞き惚れ、又母校の応援歌には手拍子で応えながら唄いました。

会の後半は大西会長による所信表明があり、さらに活動中の同好会の代表者に会の紹介をお願いしました。一年を経過して同好会の活発な活動の様子に心強さを感じながら、どこか一つでも同好会に所属してコミュニケーションを広げたいとの思いにかられました。若い方や女性の参加もさらに期待したいものです。

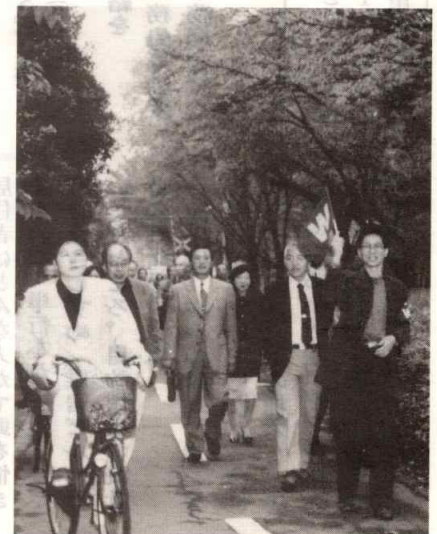
最後は校歌斉唱です。井原氏のリードで高らかに三番まで歌い上げました。皆さんの気持

かー至っていたせいか、うまく大きな輪になつて肩を組んでの斉唱でした。

閉めは三宅副会長の挨拶で来年の活動へ継ぐ決意を新たにしました。こうして懇親会は無事に終わりました。

一緒に司会役をはたした伊藤友己幹事(S51・政経)と二人でホツと胸を撫でおろしたものです。皆さん、また月例会で、来年の懇親会で是非ともお会いしましょう。

久保 栄二(S46・法)



ウォーキングあれこれ

総会の前の時間を利用して、市内ミニウォーキングを十二名の参加を得て行いました。

コースは、久米川駅南口から野火止緑道・サイクリングロードを通り、総会会場までの一・五キロメートル(三十分)でした。

参加者の方々からは、懐かしさの声、まちの変化への驚きの声もありました。(駅周辺の建物の高層化、野火止用水への下水道処理水放流、旧通産省試験場が中央公園に等)

ワセダの小旗を先頭に、緑の遊歩道を足取りも軽々(?)との我ら一行に目を止める市民もいました。こうしてまちの探索と適度のウォーミングをし、総会に臨みました。

町田 和夫(S53・理工)

『東村山稲門会』活動アンケート結果

1 東村山稲門会の目的は、会員相互の親睦、東村山の文化向上、母校早稲田大学興隆への寄与、そしてそれらの活動を通じて会員の充実した人生達成の自己啓発であると考えておりますが、貴方は本会にどんな活動・事業を期待しますか。○をつけてください。

- ①会員のための講演・勉強会 25名
- ②会員のための趣味の会 20名
- ③市民も巻き込んだ講演会・勉強会 17名
- ④会員のためのスポーツの会 14名

2 月例会を毎月第1土曜日に開いていますが、貴方が希望される曜日を教えてください。

- ①土曜日ならOK 13名 ③第1土曜日 5名
- ②土・日曜日OK 10名 ④第2土曜日 3名

3 あなた自身が活動したいと思うものに○印をつけてください。

- (1) 趣味の会
 - ①旅行 9名 ④写真、俳句・短歌 共に4名
 - ②麻雀 7名 ⑤絵画、音楽、読書 共に3名
 - ③囲碁 5名

(2) スポーツの会

- ①ウォーキング 15名 ④スキー 6名
- ②ゴルフ 11名 ⑤水泳 4名
- ③ハイキング 7名

(3) 勉強会・研究会

- ①郷土史 13名 ③外国語 4名
- ②ワープロ・パソコン 8名

(4) 地域でのボランティア活動

- ①リサイクル活動 11名
- ②植栽・花壇づくり、清掃、福祉活動 共に8名

(5) 地域での文化活動

- ①講演会 12名 ③映画会 7名
- ②音楽会 10名 ④展覧会 6名

※あなた自身が講師やサークルのリーダーになって頂ける分野・テーマが有りましたら、事務局まで連絡ください。(高柳 剛 H3・社会学)

アンケート回収枚数38枚(平成9年12月23日現在)



■月例会への参加のお願い

毎月、原則として第一土曜日に東村山市の中央公民館で十五時から開催していますが、正確な場所はそのつど「稲門会ニュース」でお知らせします。奇数月には色々な分野での専門家の方々にご出席頂き、講演会を予定しています。

例会の終了後は有志で懇親会(飲み会?)をしておりますので、是非お気軽にご出席下さい。

■会員募集と会費納入のお願い

お知らせいまだ未加入の校友がおられましたら、是非入会をお勧め下さい。また会員の方で年会費3500円を未納の方は左記宛にお振り込み下さい。

郵便口座名義「東村山 稲門会」
口座番号〇〇二六〇〇一三三五〇

■慶弔電報

会則により慶弔電報をお送りいたしますので、該当の方は事務局までお知らせ下さい。



宮 輝 雄 (S22・理工)

■「稲門会ニュース」にご寄稿を

毎月発行しています「稲門会ニュース」の原稿を是非お寄せ下さい。エッセイ、短歌、俳句、漫画、その他、稲門会への要望など何でも結構です。送り先は事務局まで。

■同好会へご参加ください

各同好会も活発になつてきました。皆さんのご参加をお待ちしています。またあらたに同好会を設立したい方は事務局にご相談下さい。旅行・パソコン・囲碁・将棋園芸・登山ハイキングなど如何でしょうか。テニスは現在、まとも役を引き受けてくださる方を待望中。美酒愛飲の会(?)とやかも近々発足のうわさ、楽しみです。

■新会員のご紹介です。よろしく

- 阿部 延子 (S51・教育)
- 秋津町三三三 (九三三〇七)
- 岩城 哲夫 (S53・商)
- 秋山四六一〇 (九一六六三)
- 迫田 実 (S52・社会)
- 栄町三三三 (九七〇六六)
- 関 一誠 (S43・教育)
- 秋津町三三三 (九三三〇七)
- 田島 隆夫 (S37・法)
- 美佳町二八八 (四九六七六)
- 野村 保夫 (S31・政経)
- 富士見町三二七 (四〇四一七)
- 八重樫 誠 (H7・文)
- 諏訪町一四三
- 山縣 正彦 (S52・法)
- 本町二二〇 (九三三三七)

■住所等の変更のご連絡を

住所・電話番号・勤務先等の変更がございましたら事務局までご連絡をお願いします。

事務局

東村山市恩多町5-24-27
電話(94)6951
小 亀 輝 雄

お願い

■ポストマンへの協力
毎月発行の「稲門会ニュース」等は会員有志のご協力により、大半は直接、皆さんの自宅にお届けしております。経費節減にたいへん役立っています。しかしまだ本町や栄町・青葉町はポストマンが不在です。皆さんの積極的な協力をお願いします。ポストマンに出会ったらどうぞ「ご苦労さま」の一言を。

編集後記



ビルを建てるのに設計図が必要のように、「会報」という印刷物も同じ。まず、その「間取り」はどうする、外観は?といった塩梅。それにツメものは何か、居住者はどんな人かで頭を悩ますものだ。単行本が一軒家なら、雑誌はさしずめ「雑居ビル」といったところ。目的次第で設計者の腕が試される。
前回は「古手の船長」サンが登場してボヤいていたが、今回は何処かの「大工の棟梁」。エンピツ詰めナメのヤツツケ仕事はやく一級建築士殿のご登場を待ちたいものだ。